

あいのかぜ

VOL. 18

2004・秋号



[特集] 私が 選んだ仕事

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。



私が選んだ仕事

男女雇用機会均等法が改正され、従来まで、「男の仕事」・「女の仕事」とされてきた職域にも、男女を問わず進出し、今日では、自分の個性と能力を活かし、それぞれの職場で活躍する姿も見られるようになりました。

今号では、男性・女性に関わらず、「自分」に合った仕事を選び、日々の職務にがんばっていらっしゃる方々への取材を通して、性別にとらわれず、個人が持つ個性と能力を十分に発揮できる社会について考えてみました。

男性の家庭科教諭にインタビュー

県内では数少ない男性家庭科教諭として、富山県立富山西高等学校で活躍されている菅原仁志^{すがはらひとし}さんに、家庭科の授業内容や、以前は女性の分野とされてきた家庭科を選び授業を行う上での苦労や思い、また、授業を受ける生徒の皆さんの感想を伺いました。

家庭科の授業内容について

菅原さん 富山西高等学校には、普通科と土木科があり、それぞれの学年・クラスで男女とも家庭科を学習しています。以前は、女子だけが家庭科を学んでいましたが、平成5年度から中学校で、平成6年度からは高校でも男子が家庭科を学ぶようになりました。今では、男女が学校で家庭科を学ぶことは当たり前になっています。

授業の内容はというと、家庭科では「家事・裁縫」というイメージがあるかも知れませんが、食物や被服だけでなく、家族や家庭生活、福祉、保育、住居、消費生活の分野など、学習する分野は多岐にわたります。生徒たちが、これから生活していく中で必要な知識や技術を学ぶ大切な教科です。

また、3年生では選択科目として「福祉一般」を履修することができ、高齢者や障害者、児童などの福祉に関する学習をします。そして、この授業では、保育所や高齢者福祉施設での1日実習や外部講師による特別講座なども行っています。

授業の中では、生徒自身が思い描くライフプランの中の「仕事」「結婚」「出産・育児」「老後」など、これから経験するであろう出来事について、「自分だったらどうする？」と生徒に投げかけるところから授業が展開していきます。食物についても「一人暮らしをするんだったら料理も少しできないとだめだよ」というところから調理実習につながるという具合です。

家庭科を選択した理由

菅原さん 私自身は、小学校では家庭科を学習しましたが、中学校、高校では家庭科の授業は受けていません。そういう時代だったのです。そんな私が家庭科の教師になろうと思ったきっかけは大学に進学してからでした。

もともと教師になりたいという希望があり、大学は教育学部に進学しました。大学からはじめたラグビーに必要な体を作るために、食品成分表をもとに1日に必要なカロリーや栄養素を調べたり、献立を考えたり、調理をしたりするうちに、栄養や調理について興味を持つようになりました。そこで、栄養や調理についてより深く学ぶことのできる家庭科を専攻しました。実際、家庭科を学んでみると、食物だけでなく、被服や保育、住居、家族生活についても面白く感じるようになり、現在に至っています。



男性として家庭科を教えることについての難しさは

菅原さん 特には無いですが、生徒は最初は戸惑うようです。教科書と見比べて、男（しかも屈強な）が教室に入ってきて「あれ今、体育の授業だったっけ」みたいな感じで。確かに、「家庭科の先生らしくない」とは言われます。家庭科の先生らしいのは、どんなイメージかと聞くと、「女性。仮に男性であっても、ひ弱そうでか細いイメージ」だそうです。

そもそも、家庭科は女性だけが教える教科ではないと思っています。男性として、女性としての視点もあるかもしれませんが、それ以上に、その人の人間性や考え方が出る教科といえると思います。自分の友達の話の聞いたり、意見交換をする中で、いろんな生き方や考え方があることに気づいてもらいたいと思っています。



取材時は調理実習の授業で、テーマは「親子丼」でした。20名の生徒が3名ずつのグループで、相談しながら調理に取り組んでいました。「自分の分は必ず自分で作るように」という指導に生徒も楽しそうでした。



高校生の「社会的な性差」に関する意識について

菅原さん 家庭科では、「社会的な性差」を意識した授業を行うことがあります。生徒たちは、学校や社会において、かなり男女は平等であり、「社会的な性差」もあまり感じられないと意識しています。

例えば、夫が妻の弁当を作っている夫婦の話をする、「(男なのに)偉いなあ」「(妻に作ってもらえなくて)かわいそう」という反応をします。そこで、「じゃあ、妻が夫の弁当を作ったとしたら、今と同じように考えるかな？」と質問すると「料理は女性が作るもの」という性別役割分担意識が自分の中に存在していることに気づきます。

「社会的な性差」について授業で取り上げる際、まず、身の回りや自分の中に存在する「社会的な性差」に気づくことが重要だと思います。そして、それについてどう思うかを投げかけ、受け止める流れの中で「社会的な性差」についての考えを深めていってもらえれば良いと思います。授業では、生徒に対して「こうなさい」ではなく「自分としてはこう思っているんだけど、みんなはどう思う？」というスタンスで接していくことを心がけています。

菅原さんのようにチャレンジしたい人たちに一言

菅原さん 「男だから」というだけで、何かと注目され、期待されるところがあるとは思いますが、私自身、それに見合うだけの力をつけていきたいと思っています。

生徒の皆さんにもクエスチョン！

Q あなたにとって、家庭科で教わることは重要？

- 私は被服に興味があるので、将来の仕事としても考えてみたい。(1年女子)
- 家庭科で教わることはこれからの人生で必要なことであり、大人になっても取り組みたい。(2年男子)

Q 男性の家庭科の先生に教わってみてどう思う？

- 別に男の先生でも驚かなかつたし、何でも話しやすい。菅原先生にはいつも楽しく明るく授業してもらえるので、家庭科の先生にぴったりだと思う。(2年男子)
- 最初は違和感があったが、親しみやすくていいと思う。(1年女子)



市内軌道電車の女性運転手にインタビュー

富山地方鉄道株式会社で、女性運転手として市内軌道電車を運転している浅井奈緒さん(写真:右)と Grant すみれさん(写真:左)に勤務の内容や男性が多いとされる運転手をなぜ選んだかなどについて伺いました。



勤務の内容について

浅井さん 市内軌道電車は、現在午前5時39分から午後11時8分まで運行しており、始発から昼まで、昼から終電まで、朝から夕方までの3交代制で勤務しています。1回の勤務で南富山 - 富山駅前間往復を約3回、南富山 - 大学前間往復を約5回運転します。運転が主な業務になりますが、運転中にトラブル等があると自分で簡単な修理などをする必要があり、専門的な知識も必要となります。

運転手を選択した理由

浅井さん 7年前に設計関係の仕事をしていたのですが、職業安定所(当時は西町)の求人募集をみて「ぜひやってみたい」と思い、転職しました。

Grantさん 上堀駅の募集広告を見て、「女性でこんな仕事があるんだ」と、その日のうちに当社に連絡しました。運転手への道のりは、予想以上に大変で、毎日8時間みっちり、半年間の厳しい研修(3ヶ月は学科、残りは実習)があり、当時はかなり苦しかったけれども、今となれば楽しい思い出です。

周囲の反応は

浅井さん 男性運転手の皆さんは、とても気を遣ってくださって感謝しています。また、家族からは、多くの人を乗せるのだから事故などを起こさず責任を持って頑張るよう応援してくれています。



男性運転手からも、職場が明るくなったと好評です。

浅井さんのようにチャレンジしたい人たちに一言

浅井さん 現在、女性運転手は私とGrantさんを含め、4人います。運転手の仕事は、勤務体系や休日が家族や友人と合わず、生活のサイクルが調整しづらい面もありますが、とてもやりがいがあります。今後、男性の仕事とされているような職場で活躍する女性が増えるといいですね。

ちょこっとコラム

知っていますか 日本の男女共同参画の現状を

左の表(HDI値)は、基本的な人間の能力がどこまで伸びたかを示しており、日本は175カ国中9位と高い水準にあります。

右の表(GEM値)は、女性が積極的に経済界や政治に参加し、意思決定に参加できるかどうかを示しており、日本は70カ国中44位とやや低い水準にあります。

このことから、日本は、個人の能力開発は進んでいるものの、女性が能力を発揮する機会はまだ十分ではないようです。

資料出所: UNDP(国連開発計画)
“ Human Development Report 2003 ”

人間開発に関する指標の国際比較

順位	国名	HDI値	順位	国名	GEM値
1	ノルウェー	0.944	1	アイスランド	0.847
2	アイスランド	0.942	2	ノルウェー	0.837
3	スウェーデン	0.941	3	スウェーデン	0.831
4	オーストラリア	0.939	4	デンマーク	0.825
5	オランダ	0.938	40	ギリシャ	0.519
6	ベルギー	0.937	41	ハンガリー	0.518
7	米国	0.937	42	メキシコ	0.516
8	カナダ	0.937	43	ウルグアイ	0.516
9	日本	0.932	44	日本	0.515
10	スイス	0.932	45	マレーシア	0.503

小学生向けの啓発リーフレットを紹介します



富山市では、小学生を対象に男女平等意識を育む啓発リーフレット「自分らしく生きる - 世界中でたった一人の私 - 」を成長段階に合わせて発行し、「総合的な学習の時間」等で活用いただいています。

このリーフレットは、富山市男女共同参画プランの施策として、柔軟な心をもつ小学生の時期に、男女平等に関する理解を深め、互いを尊重する心を育てることをねらいとし、子どもたちが自分らしく伸びやかに成長してくれることを願って作成したものです。

特に、「将来の仕事」をテーマとした5・6年生用は、将来の仕事において、自分の適性を生かし、性別にかかわらず夢や希望をもつことの大切さについて、また、「家庭での仕事」をテーマとした2・3年生用は、家庭での仕事について自分の役割に目を向け、性別にかかわらず家族の一員として働くことの大切さについて気づいてもらうことをねらいとして作成したものです。

各学年のテーマ

1年生用

色

2・3年生用

家庭での仕事

4年生用

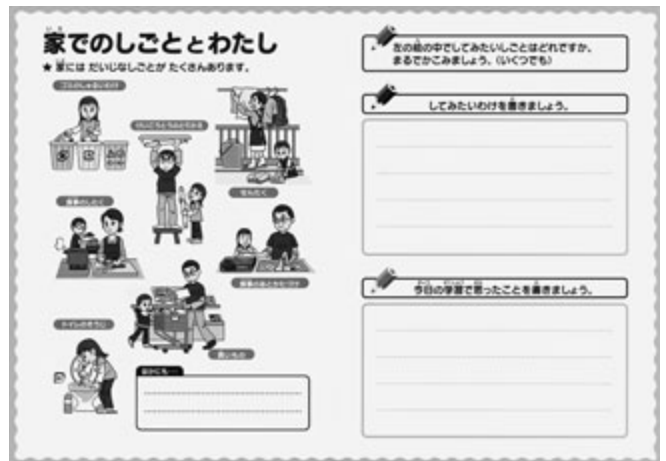
男の子だから女の子だから

5・6年生用

将来の仕事



5・6年生用「将来の仕事」より（平成15年度作成）



2・3年生用「家庭での仕事」より（平成15年度作成）

最近の新聞やニュースで、「女性で初めての…」という言葉が多くでてくるようになりました。大型の乗り物の運転手や高度な知識などを有する研究・技術者、建設や林業・漁業の作業者など、これまで男性だけとされていた分野に女性が積極的に進出しており、また、議員、企業の重役、団体の代表者など、女性の意思決定の分野での活躍も少しずつ増えてきています。

逆に、男性の傾向を見ても、これまで、性別役割分担の慣習的な意識から女性の仕事とされていた子育て・介護の分野への男性の進出が増えています。

これらの傾向から、家庭における家事や育児を、女性だけが行うのではなく、男女が共に協力して行うという認識が増えつつあること、また、女性が社会において男性と等しく責任を負い、協力しあえる存在として認識されつつあると感じます。

今回取材しました皆さんのように、これまでの男・女という性の垣根を越えて、自分の個性と能力に合った、やりがいを感じられる仕事に就いて日々活躍する方々が、さらに増えるとともに、男女が対等なパートナーとして共に輝ける社会をみんなで創り上げましょう。



男女共同参画に関する様々なイベントに参加して

DUOのつどい

平成16年6月26日 とやま自遊館において

富山県部門功労表彰や男女共同参画推進事業所認定証の交付の後、先日開催された「男女共同参画社会づくり全国会議」で、功労表彰を受賞された高澤規子^{たかざわのりこ}さんと女性のチャレンジ大賞の第1号を受賞された惣万佳代子^{そうまんかよこ}さんが紹介されました。富山の女性としてとても頼もしく、お二人とも輝いておられました。

「女(人)と男(人)とのもっといい関係」と題した講演では、テレビなどで活躍している辛淑玉^{しんすくご}さんが、会場内を所狭しと駆け回り、ユーモアを交えながら、「男・女・さんらしさ」というのは他人が決めたレッテルであり、「自分らしさ」は瞬間の自分自身による「選択の結果」の集まりで毎日変わってもいいものだから、もっと自分を大切にしておいてほしい、と私達が生きる上で大切なことを教えていただきました。会場は、講師と男性参加者との楽しいやり取りが繰り広げられ、笑い声が絶えませんでした。



男女共同参画推進フォーラム2004

平成16年7月10日
富山市民プラザにおいて

このフォーラムは、男女共同参画週間（6月23日～29日）に合わせて、平成14年度から実施しています。

第1部では、富山県男女共同参画推進地域リーダーとその経験者で構成している「舩座」^{ふねざ}の皆さんが、寸劇「男女共同参画社会をめざして」を上演されました。日常生活におけるいろいろな場面での会話から、男女共同参画について考え、親しみを持てるような楽しいコントでした。

また、第2部では、講談師の宝井琴桜^{たからいきんおう}さんによる「男女でささえる21世紀」と題した講談がありました。宝井さんは、講談師になることを選択されたご自分の気持ち、当時の講談界や兄弟子等の反応、昭和50年に女性で初めて「真打ち」に昇格されたことをユーモアたっぷりにお話いただきました。ちなみに、講談界は500年の伝統があり、その間、完全に男性のみで構成されていたそうですが、宝井さんが「真打ち」に昇格して以来、「女性だってできるんだ」ということが広まり、どんどん女性の後輩が増え、今では女性講談師の方が多くなったそうです。

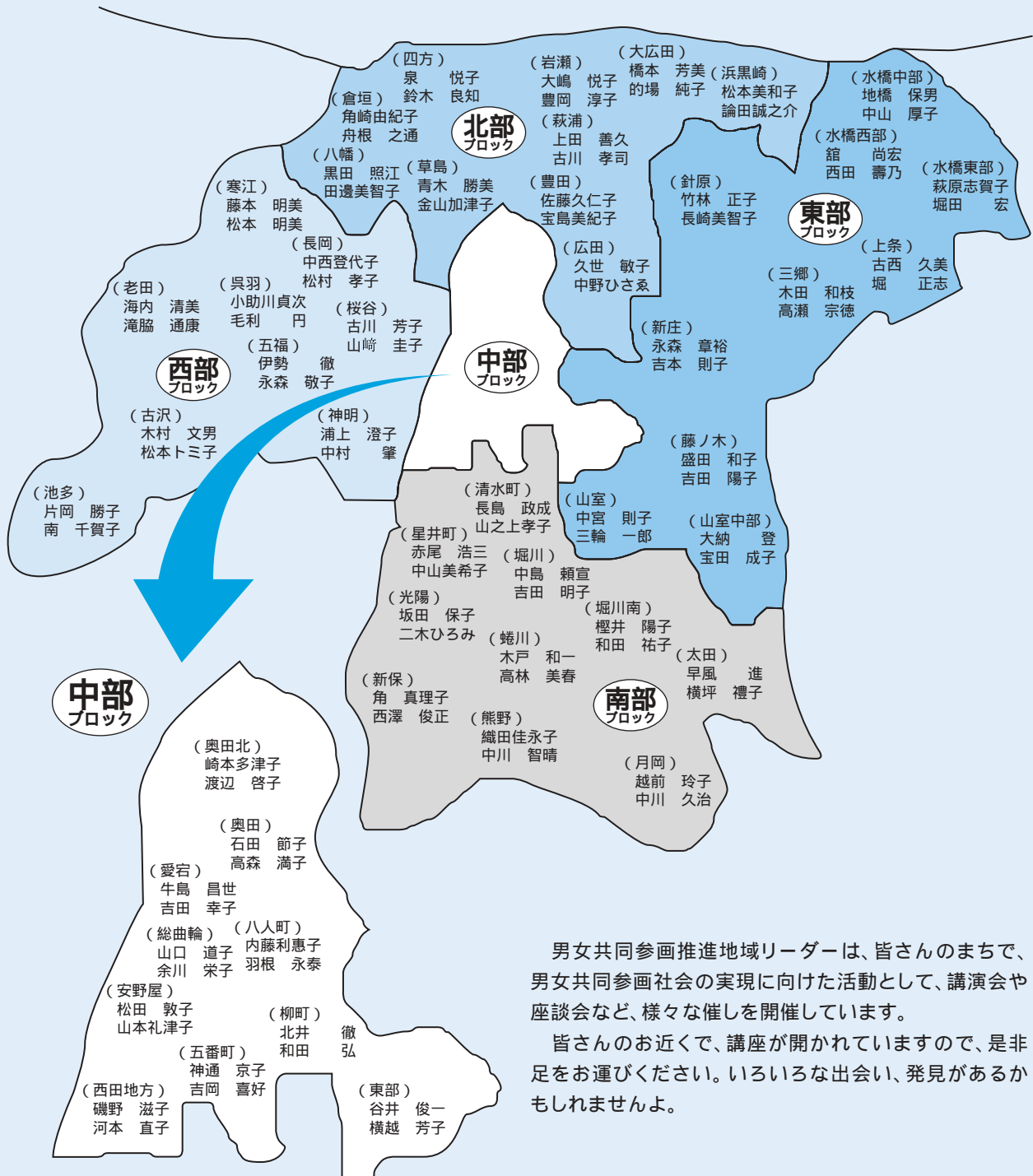
さて、お話の内容については、講談風に。「さあ、尺台を前に凜と構えた宝井琴桜さん（ババン！：張り扇^{はりあふぎ}）語るは「山下さんちの物語（ババン!!）元気なハナおばあちゃん、息子のカツゾウさんに妻のシゲコさん。家族それぞれの暮らしの中で、男だから、女だからってだけで生じているいろんな差別に直面し、今の日本、本当にこれでいいのかという疑問が生じ始めたあ（ババン・バンバン!!!）」



宝井さんは、「男性と女性が一つの土俵に上り、一緒に取り組みれば、どちらかだけが責任を負うことはなく、お互い楽になる。そして一緒に喜びを分かち合えばやりがいがある。みんな楽しく、一つの土俵でのこった、のこったあ！。これが男女共同参画社会だと思えば何てことない。」と、何かと難しい話になりがちな「男女共同参画」を、威勢の良い張り扇の音と共に、爽快かつ楽しく語っていただきました。

あなたの地域のリーダー

富山市では、地域での男女共同参画の推進をめざして、
地域から推薦された方々に
「富山市男女共同参画推進地域リーダー」を
委嘱しました。(1地区2人で計98人)



男女共同参画推進地域リーダーは、皆さんのまちで、男女共同参画社会の実現に向けた活動として、講演会や座談会など、様々な催しを開催しています。

皆さんのお近くで、講座が開かれていますので、是非足をお運びください。いろいろな出会い、発見があるかもしれませんよ。

男女共同参画とやま市民フェスティバル

ひとひと
～女と男のつどい2004～のご案内



近年、少子高齢化社会の到来や高度情報化の進展等、私たちが取り巻く環境が大きく変化している中で、男女が互いに人権を尊重し、責任を担い、個性と能力が発揮できる男女共同参画社会の実現が必要となっています。このことを背景に、男女共同参画推進センターでは、男女共同参画推進に向けた積極的な取り組みについて市民の方々に知って頂くこと、女性の社会参画の促進、男女共同参画の意識を高めることを目的に「男女共同参画とやま市民フェスティバル～女と男のつどい～」を開催しています。

今回は、「とやま発 “いのち、輝いて”」というテーマで、講演の他、いろいろな講座等が実施されます。ワークショップでは、国際交流も兼ねた「男性料理教室」や「パパと遊ぼう」等が予定されていますので、日ごろ料理や子どもと接する時間がなかなか作れない男性の方々ぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。

日時 平成16年11月14日(日) 9:30～15:30

場所 富山市男女共同参画推進センター 富山県民共生センター

内容 ・講演「人生っておもしろい」 講師 市田ひろみ氏(服飾評論家)
・ワークショップ「男女共同参画コント(舳座)」、「うつ病と向き合う」、「ペットボトルで遊ぼう」等
・くつろぎコーナー 他

問合せ 富山市男女共同参画推進センター

TEL 076(433)1760 FAX 076(433)1761

HP <http://www.city.toyama.toyama.jp/institution/suishin-center/index.html> まで



編集後記

波風を立てない、新しいこと変わったことにはしない。それはとても安定し同時に持続しやすいことでしょう。

しかし、同時にそれは退屈で、人々の興味を引かないもの、どうでもいいものになってしまい、そのものが衰退するきっかけの一つになりえるのです。

新しいことをすることは、ともすれば現実に対する批判であり、挑戦であり、驚異になるかもしれません。それでも頑張っている人達を、もっとも取り上げたかったです。

小山ゆづ子

私の長女と長男は、今号に掲載されている小学生向けの啓発リーフレットを教材として使っています。我が家で私たち夫婦が、頭ではわかっているのですが、つい男だから女だからというふう言葉を使うと、それはおかしいことだと子どもから指摘を受けるのです。

しかし、私たち親世代は、言葉では平等と言われ始めていましたが、実際は自分自身の親(子どもにとっては祖父母)に男だから女だからと言われて育てられた世代です。次世代を担う子ども達との大きなギャップを埋めるために私たち世代は何をしていけばいいのかと考えさせられています。

布施小百合

秋号は、今までは男性の職域、女性の職域と思われていた職場で働く方々への取材をテーマにしました。

自分では、男女共同参画の知識と理解はできていると思っていたのですが、これは机上論的な理解であって、現場での取材を通して、興味津々で取材をしてしまい、どのように対処されているのかなどが気になりました。

取材させていただいた方々は何の違和感も無く、男・女と意識することはあまりないとの答えに、私の頭の隅っこに未だに区別している部分があることに気づきました。

夜久 文子

タイトルの“あいのかぜ”は、「私(英語でI)の風」、「あいの風(富山弁で北東からの涼しい風)」、「愛の風」を表しています。表紙の写真は、「神通川情歌」(大垣卓写真集)からの作品です。

編集・発行 富山市役所市民生活部男女共同参画課

〒930 8510 富山市新桜町7 38 Tel. 076 443 2051

Fax. 076 443 2176

“あいのかぜ”へのご意見・ご感想をお待ちしております。

[宛先] 〒930 8510 富山市男女共同参画課(住所記載不要)

[アドレス] danjyo-01@city.toyama.lg.jp